

1. 沿線自治体における将来都市像の整理

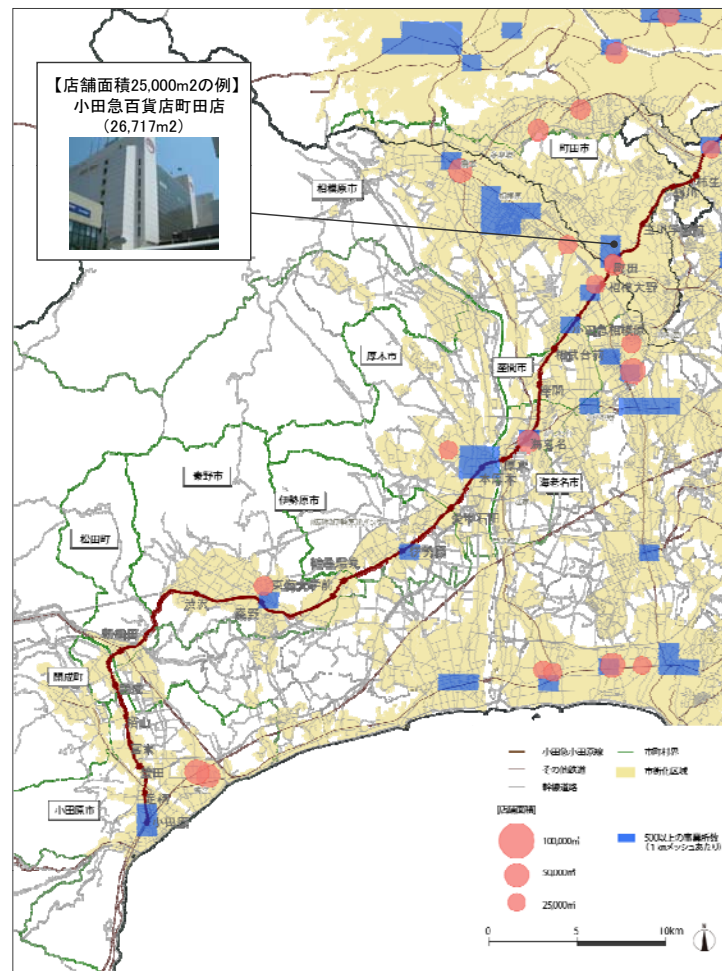
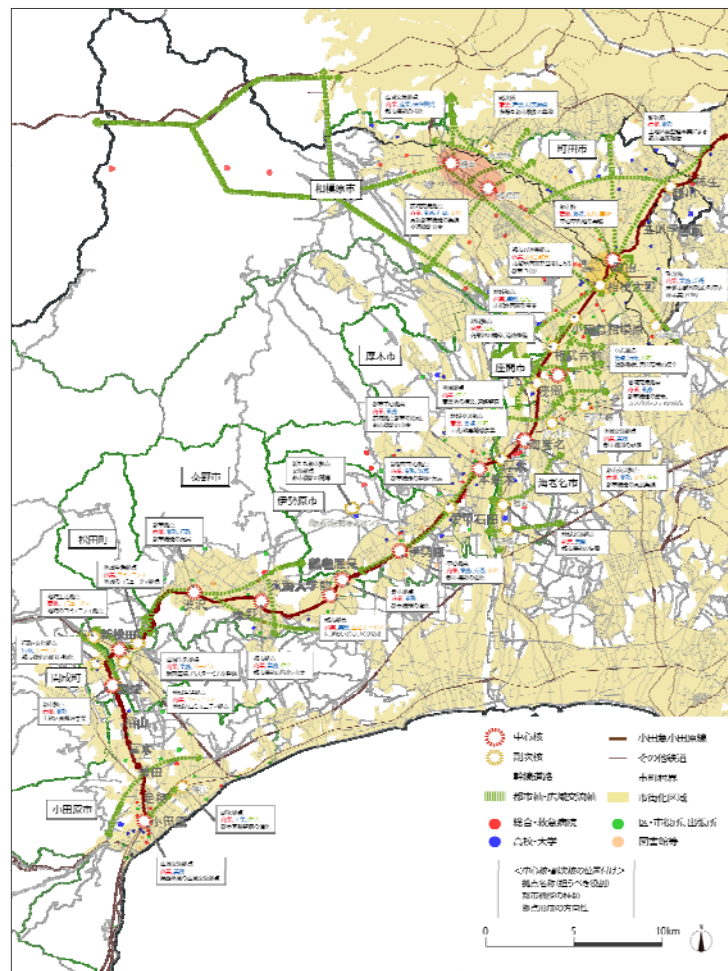
沿線地方公共団体の都市計画マスタープラン等において示されている将来都市像をまとめると、次の点が認められる。

- ①駅周辺におけるまちづくり拠点形成が、沿線の多くの地方公共団体で示されている。
- ②各拠点で商業施設、業務施設、文化施設などを主体としたまちづくりとなっており、病院機能の立地については描かれていない。
- ③沿線の近隣市区町との連携が計画されていない。

◆沿線自治体の都市計画マスタープラン (中心核・副次核の位置付け)

◆現況の大型小売店と主要駅における事業所の立地状況 (25,000㎡以上の店舗を対象とし店舗面積に応じたプロット、また1kmメッシュあたり500事業所数を示す)

◆現況の病院と図書館の立地状況 (延べ床面積に応じたプロット)



(出典) 大型小売店データ2012年版、東洋経済新報社
※2011年12月時点データ

◆沿線自治体の都市計画マスタープラン
 (中心核・副次核の位置付け) : (拡大図)

